

Eastspring Asia Now

Vol.10 日系企業のインド進出は加速するか？

eastspring
investments

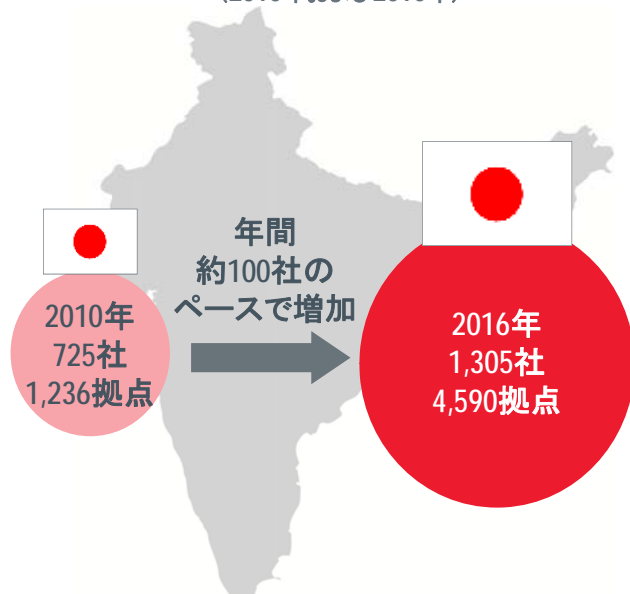
7月から導入予定の物品・サービス税(GST)は外国企業進出の呼び水

- ▶ 高い経済成長率、人口約13億人の巨大市場であるインド。安定した政治情勢や労働力、旺盛な個人消費など、投資先として重要な要素を兼ね備えるインドは、日系企業の海外拠点としてこれまで以上に注目を集めています。日本の製造業の中期的事業展開の有望先としてインドは3年連続の1位となっています。
- ▶ インドでは2014年のモディ政権発足以降、インフラ整備や外資規制緩和など、海外から直接投資を呼び込むための改革を積極的に進めています。7月には、州ごとに設定されている間接税の体系を全国で統一するGSTが導入される予定です。企業納税の簡素化、事務コストの削減等により外国企業の進出に弾みをつける狙いです。

日本の製造業が有望と考える事業の
展開先ランキング (2016年)

インド進出日系企業 企業数および拠点数*
(2010年および2016年)

順位	中期的 (今後3年程度)	長期的 (今後10年程度)
1	インド	インド
2	中国	中国
3	インドネシア	インドネシア
4	ベトナム	ベトナム
5	タイ	タイ
6	メキシコ	メキシコ
7	米国	ミャンマー
8	フィリピン	米国
9	ミャンマー	ブラジル
10	ブラジル	フィリピン



出所: 国際協力銀行「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査報告 -2016年度 海外直接投資アンケート結果(第28回)-」に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*インドで登記された社名による。2016年10月時点。
出所: 在インド日本国大使館、ジェトロ「インド進出日系企業リスト(2017年1月)」に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

良好な日印関係を背景とした経済協力

- ▶ 2016年11月にモディ首相が来日した際の日印共同声明では、「日印投資促進パートナーシップ(2014年発表)」の下、5年間でインドに対する3.5兆円の官民投融資を実現するための着実な進展を歓迎しました。
- ▶ インドは中国の「一帯一路」構想とは別の「アジア・アフリカ成長回廊」という構想を明らかにしています。これは、東アジアからアフリカにかけて地域でインフラ投資などの分野で日本とインドが協力を進める戦略的構想です。

出所: 外務省の資料、各種報道に基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

インドの映画館で鑑賞するには？

日本の映画館と同じく、たいのチケット売り場は入り口の近くにあり、オンライン予約もできます。ただし、座席は絶対に指定することをお勧めします。なぜなら日本と違って、インドの映画館は座席を指定しないと、自動的に後ろの列から詰められてしまうからです。

また、入場の際にはセキュリティチェックがあり、大きな荷物は持ち込めないのが注意が必要です。日本語訳はもちろん、英訳での上映はほとんどありませんが、雰囲気だけで楽しめるのもインドでのボリウッド映画鑑賞の醍醐味です。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第379号/加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社は関係がありません。